



評価のポイント

CL-1.看護実践能力：協働する力

〔50-1〕報告・連絡・相談（伝える力、聞く力、質問する力）の実際

報告・連絡・相談を受ける医師の立場に立って、どのような報告や相談が望ましいかについて普段工夫していることも含めて話し合ってみましょう。

- ・緊急度や重症度、とくに緊急性（すぐに対応が必要か否か）を意識して患者の状態を把握するように心がけている。
- ・緊急時の報告連絡相談では、治療的な介入が必要かどうかを考えて、SBARなどの報告のツールを用いている。
- ・結論を先に述べて、その後に理由や患者の状態を簡潔に伝えるように工夫している。
- ・患者の状態を伝える際は、「尿量が乏しい」「血圧が下がっている」などのあいまいな表現ではなく、「尿量100mL/h」「血圧120/90mmHg→90/60mmHgに低下している」などのように客観的な指標を心掛けている。
- ・オーバートリアージを恐れないようにしている。その際は、「気になったので報告しました。」「相談にのって下さってありがとうございます。」など、報告の後は相手に感謝の言葉を述べる。